

L08b **アイソン彗星 (C/2012 S1 (ISON)) からの流星群出現の可能性の検討**

佐藤 幹哉 (かわさき宙と緑の科学館), 渡部 潤一 (国立天文台)

2012年9月に発見されたアイソン彗星 (C/2012 S1 (ISON)) は、2013年11月28日に太陽と接近し、その後に大彗星となることが期待されている。この彗星の軌道は、地球へも比較的接近していることがわかっている。そこで、長周期の彗星軌道を仮定して、一回帰のダスト・トレイルの分布についてシミュレーション計算を実施した。

その結果、ダスト・トレイルと地球軌道は0.0081 AUまでしか接近しないことが判明した。また実際に流星が出現するためには、地球がダスト・トレイルに遭遇するタイミングで接近しなければならない。このタイミングまで考慮した場合には、地球とダスト・トレイルが0.0095 AUまでしか接近しないことが判明した。これは流星群として流星が出現するには至らない条件であると判断される。

また、彗星のその後の位置観測からは、双曲線軌道であるとの報告もあり、ダスト・トレイル自体が存在しない可能性が高まった。これらを総合すると、アイソン彗星を起源とする流星群の出現する可能性はほとんどないものと推測される。